



いのちと暮らしを守り 住み続けられるまちへ

森戸よう子市議の活動レポート（子育て編）



子育て...楽しさもあり、苦労もあり、でも結局、親は子どもに成長させてもらっているんだよね。

それにしても、小金井市政ももっと子育てを応援する環境をつくってほしい...!

そんな思いを持ち続けながら、2人の子どもを育てながら、市議会議員として活動してしてきました。



より良い子育て環境を願うみなさんの声を大切に、子育て安心の小金井のまちをつくるため、全力をつくします。

日本共産党小金井市議会議員
森戸よう子



森戸よう子さんってどんな人？

中学、高校、大学—バスケットで心身を鍛える

森戸よう子さんは、1956年鳥取県米子市で生まれました。中学校ではバスケット部のキャプテンとして、高校では西部地区国体選抜選手として活躍しました。高校3年になると大学受験で忙しく友達は次々とやめてしまいましたが、よう子さんは「やり始めたらいい加減でやめるな」というお母さんの言葉をかみしめ、最後まで頑張りました。こうした青春時代のスポーツで鍛えた心と体が、今も議員として日夜をを分たぬ活動を支えています。



小金井市議会初！出産した女性議員として

森戸よう子市議は、1989年32歳で市議会議員に初当選。その翌年、長男が誕生しました。出産の1週間前まで議会で発言。スエーデンのような代理制度があればよいのにと感じました。長女の郁子さんがようやく3歳でくりのみ保育園に入り、長女の裕一君は別の認可外保育園へ。朝夕は、ベビーカーを押しながら2つの保育園を行ったり来たり。議会が遅くなるときは、夫・文男さんが帰るまでの間、2人の子どもを預かってもらうなどやりくりしながらの子育て時代でした。

プロフィール 1956年6月生まれ。ふたご座 出身 鳥取県米子市 県立米子西高校普通科卒業、県立米子東高校専攻科修了 最終学歴 1980年 東京都立大学経済学部卒業 1989年4月初当選。議長、副議長を歴任。現在、議会運営委員会委員長。総務企画委員、ごみ処理問題特別委員会委員、後期高齢者医療広域連合議会議員。くりのみ保育園父母会副会長、東小学校PTA副会長を務める。日本共産党東京都委員会都委員、北多摩中部(小金井・国分寺・国立地域)地区委員会副委員長 家族 夫、一女一男と犬1匹 趣味 音楽鑑賞 好きな俳優 ブルース・ウィルス、役所広司 好きな歌手 エリック・クラプトン、松任谷由美、エンヤなど。



2013年3月号外 発行：しんぶん小金井社 連絡先：若木稜
東町4-27-9 042-381-0779

小金井市委員会は、森戸よう子市議の活動について発表しました。

子どもが笑顔で過ごせる子育て一番の小金井のまちを

森戸よう子の約束

1. 認可保育園をふやします。病後時保育を増やします。
2. 保育園、学童保育の委託化をやめ、共働き家庭が安心して子育てができる環境をつくりまします。
3. 認証保育所の支援と保護者助成金9000円を引き上げまします
4. 私立幼稚園の保護者補助金の増額と10万円前後にもなる入園金の負担を軽減しまします。
5. 育児に困ったときの相談の窓口ともなる児童発達支援センター（東小金井駅北口）を利用しやすいものにしまします。
6. 貫井北町で実施されている健診事業をもっと利用しやすいように改善を求めまします

税金の使い方を切り替えれば実現できる

市は、市民には「危機的な財政状況」といって、市民の皆さんの願いに応えようとしていまません。でもその一方で、今すぐ広げる必要がない道路の拡幅に14億円使い、目的がはっきりしない土地を7億円かけて買収しようとしていまします。税金の使いかたを切り替えれば市民の願いは実現できます。



認証保育所園児や私立幼稚園児の負担も軽減。条例を提案し、市長に実現を迫る

認証保育所や私立幼稚園に子どもを通わせているご家庭への助成金や入園支度金の条例を提案したり、予算の組み替え案を提案。自民、公明党などの反対で否決されています。

ただ、市は市民の皆さんの声と日本共産党の粘り強い要求などにより、金は若干増、今後とも現に粘り強く働きかけていきます。他市と比較しても、まだ低い



	認証保育所	幼稚園
小金井市	9千円	3200円 入園支度金なし
三鷹市	1万円	市補助分 4700円 この他に入園支度金 3万3千円
武蔵野市	3歳未満 2万円 3歳以上 1万円	市補助分 5000円 この他に入園支度金 3万円
府中市	1万円	市補助分 4200円
国分寺市	1万円	市補助分 3200円

値上げされた保育料を引き下げさせました

民主党政権のもとで、保育料が自動的に上がってしまいました。厚生労働省からは、影響が出ないようにと連絡文が来ていましたが、小金井市はこれを無視。多摩26市で影響が出ないようにした市は24市でした。市民から陳情書が出され、採択したのに、市長は議会の意志を無視。今年2月に日本共産党は条例を提案し、他の会派に賛同を求め、可決の見込をつけると、市長は自分で条例を提案したいと表明しました。

乳幼児医療費助成、出産祝い事業、健診時のブックスタート 子育ての経験を生かし、市民のみなさんとともに実現

森戸よう子市議は、2人の子どもを育てながら、子育て世代の願いを市政に届けて活動。すべての**子どもたちの医療費を無料**へと1期目の時から条例を提案し、実現を迫り、就学前の児童はすべて無料に。**出産祝い事業は、**20年以上前に出産した病院で他市では市からのプレゼントがあることを知り、要求。実現へ。当時はアルバムでしたが、現在は絵本に変わっています。また、小さいころから本に触れる機会をと、健診時の**ブックスタート**を提案。ボランティアのみなさんのお力を借りて実施。